



中央診療所だより 第57号(季刊) 平成30年4月1日発行
 公益財団法人 京都健康管理研究会 中央診療所
 〒604-8111 京都市中京区三条通高倉東入樹屋町58・56番地
 外来診療 075-211-4502 健康診断・人間ドック 075-211-4503
 臨床研究センター 075-211-4504 **NEWS** www.chuo-c.jp

平成の三十年 働く人々と職場の変遷

理事長 泉 孝英

平成の時代はあと一年余りとなりました。この三十年間、私達の周辺で何が起こっていたかを整理して、考えてみたいと思います。

■超高齢社会・超長寿社会

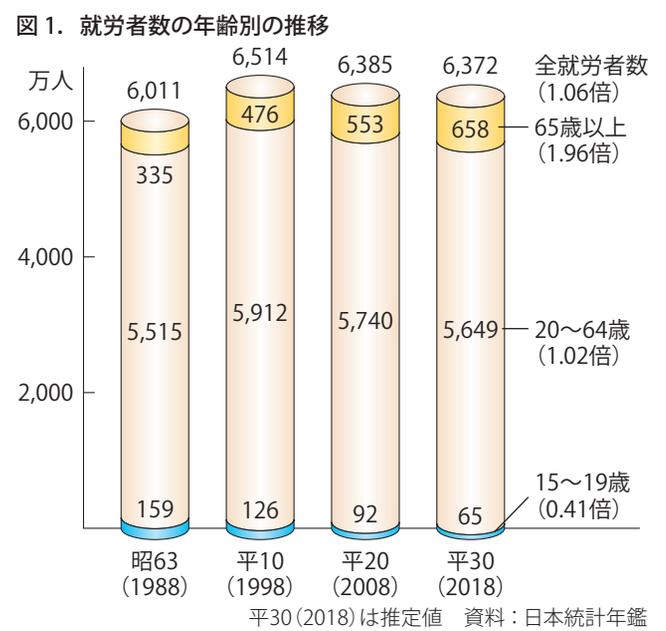
高齢者(六五歳以上)の人口は一・九〇倍に増加
 高齢化率は二九%の超高齢社会となりました。平均
 寿命は、男女はともに六歳の延命となり男性は八一
 歳、女性は八八歳の超長寿時代となりました。

■働く人々(就労者)の年齢の変動(図1)

未成年の就労者数は三十年間に半分以下になりました。少子化の影響もありますが、大学進学者の増加も大きな理由です。大学進学率は二五%から五二%と倍増しました。

一方、高齢者の就労者数は倍増しました。年金の少なさといつまで生きるのかの不安感が原因です。首相から「一億総活躍」と言われなくとも、「死ぬまで働かざるを得ない国」になってきました。

■職場(産業)別就労者数の変動(図2)

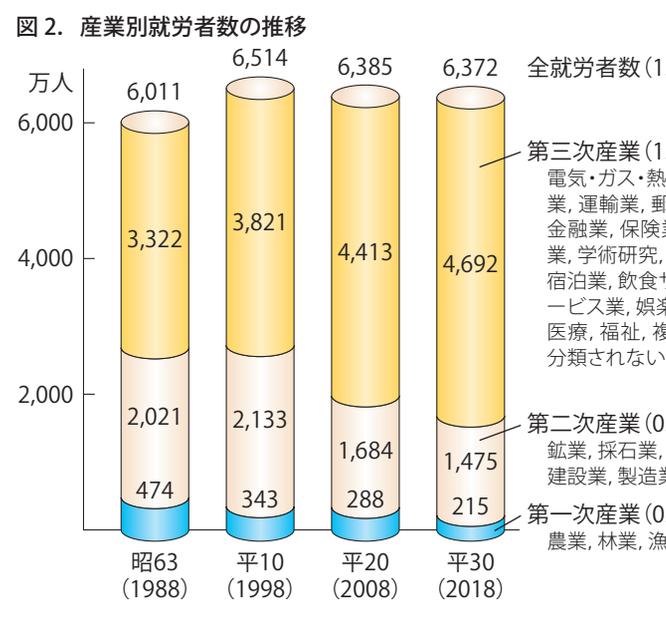


直接資源を採取する人々の数は半減以上になりました。原材料の確保が心配される事態です。

■働く人々(就労者)が減少した仕事(図3)

●農林水産業・五割以下になりました。米の生産量は九三三トンから八二七三トンと八%減少しました。食料自給率は五〇%から三七%に激減しました。海上交通路が閉鎖されたりすると大変です。

●製造業・働く人々の数は七割以下に減少しました。工場(事業所)数が四・三万から一・六万と四割近く減少しました。国内工場の生産効率が急速に進んだことと、海外への工場移転のためです。加えての問題は、粗利の激減です。三〇年前、生産額に占める原材料費の割合は五八%程度でしたが、現状は七〇%です。原材料費の高騰に加えて、過剰生産・国際競争の激化のためです。政府が、人件費の削減、さらなる職場のブラック化を目指して、「働き方改革」を行わざるを得ない根本の理由です。

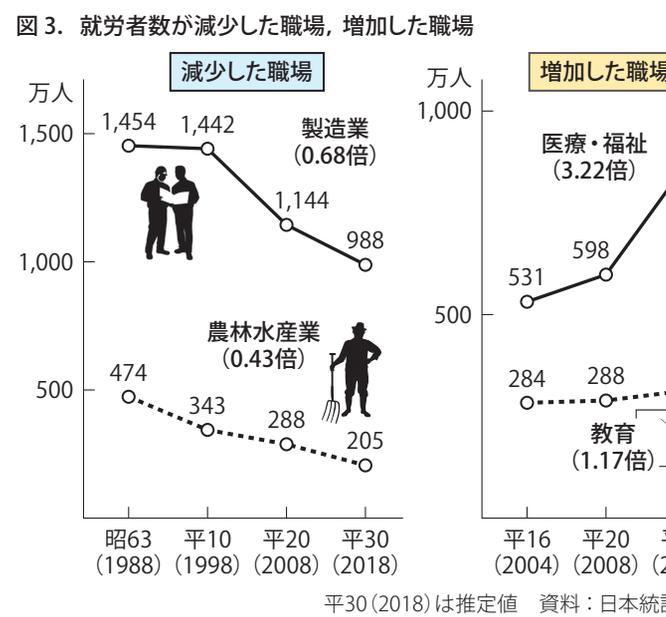


●医療・福祉・三〇年間に三倍以上になりました。医師数は二〇万から三四万と七割以上の増加です。医学生数の増加に加え、高齢医師が働き続けているためです。歯科医師数も七万から一十一万と六割近くの増加です。薬剤師数は一四万から三十一万と二・二倍の激増です。当然のこととして、国民医療費は一九兆円から四三兆円へと二・三倍に増加しました。

■働く人々(就労者)が増加した仕事(図3)

●教育・増加したとは言え二割以下です。大学数は四九〇から六一七(一・二六倍)、学生数は二一〇万人から三〇〇万人(一・四三倍)に増加しましたが、教員数はあまり増加していないためです。起こっていることは、教員の担当コマ数(授業時間数)の増加です。

一昔前の大学の教員の仕事は「研究・教育」でしたが、目下は「教育専念」となってきました。



●教育・増加したとは言え二割以下です。大学数は四九〇から六一七(一・二六倍)、学生数は二一〇万人から三〇〇万人(一・四三倍)に増加しましたが、教員数はあまり増加していないためです。起こっていることは、教員の担当コマ数(授業時間数)の増加です。

■次の時代に行わねばならないこと

『平成の三十年間に、わが国は人が人の面倒をみる職場(医療・福祉・教育)で働く人々の数が一七七万人(人口の約一割)という、桃源郷の国』しかし、この間に、国の債務(借金)残高は二七一兆円から一三九兆円(国家予算の十分分以上)に増加しました。債務の増加の原因は、まずはGDP(国民総生産額)が米国に次いでの世界二位から三位に転落したこと、国民一人あたりのGDPが世界九位から二二位に低下したことにみられる国力・経済力の低下のためです。加えて、税金を殖やしていないためです。世界の社会保障国家はいずれも消費税二〇〜二五%。一〇%にも出来ないわが国では借金が殖えるのは当然のことです。

平成の次の時代は、『国が破産して、どこかの国の属国(支配される国)になる』ようなことが起こらないための必死の努力が必要です。政府・政権は北方領土の返還、iPS研究、MRJの開発のような夢を追う政策をPRするのではなく、わが国の置かれた厳しい経済状況を国民に伝え、国民生活に我慢を強いることを覚悟の上です。『財政健全化を至上目標』とする政府・政権の誕生、国民の良識の向上を期待しなければなりません。

世界の大学ランキングで、日本の大学のランキングはどんどんダウンする理由です。

●医療・福祉・三〇年間に三倍以上になりました。医師数は二〇万から三四万と七割以上の増加です。医学生数の増加に加え、高齢医師が働き続けているためです。歯科医師数も七万から一十一万と六割近くの増加です。薬剤師数は一四万から三十一万と二・二倍の激増です。当然のこととして、国民医療費は一九兆円から四三兆円へと二・三倍に増加しました。

前記のように、製造業では四六六万人の人々が職を失いましたが、医療・福祉で五九六万人の雇用の場が増加したことは、失業率の低下を防いだと言う意味では有効な政策であったとも言えることです。しかも、医療・福祉で働く人々の賃金は製造業の七割程度であることを考えると、国全体の雇用対策としては成功と言えることかも知れません。